

逐次的单元構成によるサッカー授業の実践的研究

—生徒の主体的課題解決能力向上を目指して—

筑波大学附属駒場中・高等学校 保健体育科

中西健一郎・岡崎 勝博・合田 浩二

加藤勇之助・入江 友生

西嶋 尚彦（筑波大学）鈴木 和弘（国際武道大学）

逐次的単元構成によるサッカー授業の実践的研究

～生徒の主体的課題解決能力向上を目指して～

筑波大学附属駒場中・高等学校 保健体育科

中西健一郎・岡崎 勝博・合田 浩二

加藤勇之助・入江 友生

西嶋尚彦 (筑波大学) 鈴木和弘 (国際武道大学)

要約

本研究は、逐次的単元構成に基づくサッカー授業により生徒の主体的課題解決能力の変化を検証することを主たる目的とした。逐次的単元構成法はプロセス依存型の単元構成法であり、教師主導型から生徒主導型へ移行することにより主体的な課題解決能力を育成することをねらいとする。本研究では、単元の進行に伴い、生徒達のサッカーへの戦術理解度、達成度の向上が見られた。また、質問紙の結果分析から単元の進行に伴い、内発的意欲、主体的態度、達成満足感、自己効力感の主体的課題解決能力を構成する4要素全てにおいて向上が見られた。

本研究は、逐次的単元構成による高校3年生選択授業「サッカー」で行われた実践研究を先行研究として、中学1年生で試行した。今後、他の年代・領域での継続的な研究が必要である。

キーワード：逐次的単元構成、保健体育授業・主体的課題解決能力

1 研究目標

日本では、学校教育における保健体育授業において、多くの児童・生徒がサッカーをプレーする機会を持つことができる。保健体育教師が、サッカーの授業を充実させ、多くの子供達にサッカーへの興味・関心を抱かせることは、サッカーの普及において有意義だと考えられる。

また、物質的に豊かな時代でありながら、様々な問題に直面している学校教育の現場では「生きる力の育成」が重要視されている。「生きる力の育成」の重要な要素である主体的課題解決能力をサッカーの授業を通じて向上させることは社会におけるサッカーの文化的価値の向上にもつながると考えられる。

逐次的単元構成法はプロセス依存型の単元構成法であり、教師主導型から生徒主導型へ移行することにより主体的な課題解決能力を育成することをねらいとする。

本研究では、逐次的単元構成によるサッカー授業の実行可能性を検討することを目的とし、質問紙調査法を用いて、生徒のサッカー授業における主体的課題解決能力（内発的意欲、主体的態度、達成満足感、自己

効力感の4構成要素から成立している）を検証した。

2 研究の実際

2.1 研究仮説

事前アンケートの結果から、対象となった生徒の大多数は、技術習得やただゲームを楽しむだけの授業しか経験しておらず、サッカーの戦術習得や判断力の習得を目的とした授業を経験していない。

したがって、サッカーのゲームを攻撃/守備、個人/グループ/チーム、オン・ザ・ボール/オフ・ザ・ボール等の局面に分けて捉え、その局面での戦術についてM-T-Mメソッドを用いて指導すれば明確に理解・実践できるであろう。単元の前半では、教師主導型授業によりサッカーの戦術を理解・習得し、生徒の自己効力感、達成満足等は高められていけよう。単元後半のリーグ戦(生徒主導型授業)では、前半で学習した戦術をもとにチームコンセプトを決定し、チームで共通理解を持ってプレーすることにより、生徒の主体的態度、内発的意欲等が向上するであろう。

2.2 単元計画

実地した授業は以下の通りである。

逐次的単元計画 ボールを使った体づくり運動&フットサル(2005/11/22現在)

(1~9時間目:教師主導 10~14時間目:生徒主導)

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
10月24日	10月26日	11月2日	11月4日	11月6日	11月7日	11月9日	11月21日	11月24日	11月28日	11月30日	12月1日	12月12日	12月13日	12月14日
オリエンテーション	ルール学習①	ルール学習②	攻撃の戦術①	攻撃の戦術②	攻撃の戦術③	守備の戦術①	攻撃の戦術④	攻撃の戦術⑤		リーグ	リーグ	リーグ	リーグ	リーグ
アンケート	試合ゲーム	試合ゲーム	フリーストキック	サポート	ゴールキーパー	ポジティブ	ポジティブ	フットサルゲーム						
0オリエンテーション	ボール運動 フリーストキック ルール講習会 (ゲーム形式)	ボール運動 フリーストキック ルール講習会 (ゲーム形式)	ボール運動 フリーストキック ドリブル練習											
10アンケート	単元計画について	単元計画について	単元計画について	単元計画について	単元計画について	単元計画について	単元計画について	単元計画について	単元計画について	単元計画について	単元計画について	単元計画について	単元計画について	単元計画について
20授業計画について	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動
30(第一回測定 &説明)	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合
40	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合
50	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合	試合

* ……教師指導テーマ

- (ア) 対象：東京都T中学校1年生男子123名
- (イ) 調査期間：平成17年10月24日～12月15日
- (ウ) 時数：全14時間

2.3 アンケート調査

サッカーの授業に関する意識調査・戦術の実態調査は以下のように実施した。

- (ア) 対象：T中学1年生 学年全クラス生徒 (男子123名)
- (イ) 調査方法：質問紙法
- (ウ) 調査期日：
 - 平成17年10月24日 (事前調査)
 - 平成17年11月28日 (中間調査)
 - 平成17年12月15日 (事後調査)

3 結果及び考察

- (1) 単元の進行に伴い、サッカーへの戦術理解度、達成度の向上が見られた。
- (2) 質問紙の結果分析から単元の進行に伴い、内発的意欲、主体的態度、達成満足感、自己効力感の主体的課題解決能力を構成する4要素全てにおいて向上が見られた (詳細な結果は次回報告)。

4 今後の課題

本研究は、逐次的単元構成による高校3年生選択授業「サッカー」で行われた実践研究を先行研究として、中学1年生で試行した。今後、他の年代・領域での継続的な研究が必要である。

【参考文献】

鈴木和弘 (2002) 国際武道大学
「生きる力」を育成する保健体育 健学者
今泉守正 (2003) 千葉県立幕張高等学校
「生徒の主体的な実践力と課題解決能力を育成する授業のあり方～サッカーの授業を通して～」